

令和5年度 第1回 八尾市史編纂委員会

【日 時】 令和5年8月1日(火) 午前10時～11時10分

【場 所】 八尾市水道局 4階 大会議室

【出席者】 村上 委員長、櫻井 委員、寺澤 委員 山原 委員、築山 委員、新堂 委員

【案 件】 (1) 令和4年度 市史編纂事業報告について
(2) 令和5年度 市史編纂事業計画について
(3) その他

【要 旨】

○案件1 令和4年度 市史編纂事業報告について

○案件2 令和5年度 市史編纂事業計画について
 新版八尾市史 小字図編について(案)
 新版八尾市史 通史編2 目次(案)

築山委員

編纂事業計画について委員会で議決するという認識でよろしいですね。その中で令和5年度も当初の計画どおり進んでいるということで理解してよろしいか。

事務局

基本的には計画どおりに進んでおります。今年は事業最終年度で2月に本を2冊刊行して編集事業は終了するというので、現在、順調に進んでいるところです。

築山委員

事業計画の普及啓発活動についてですが、事務局が考える目標や到達点があればお願いします。

事務局

昨年までは市史を読む会という講座を行っていましたが、今年は市民に分かり易いタイトルに改めると共に、市史の内容も含めて八尾市の歴史を学んでもらいたいとの思いから、執筆された先生だけではなく、写真愛好家の方に八尾の鉄道についてご講演いただきました。市史編纂事業終了後も、市民に八尾の歴史に興味を持っていただき、さらに深く掘り下げてもらうように普及啓発活動を行いたいと考えております。

築山委員

3月12日は44名来られたのですね。新たな参加者を増やすという狙いは叶えられたのですか。

事務局

昨年よりも多くの方に来ていただきました。タイトルに興味を持って来られた方も20人ほどおられました。パネル展示もしていましたが、鉄道の写真を見て、こんな歴史や景色があったんだなど興味をもっていただき、八尾市史を読んでみようという方もおられました。

櫻井委員

寺澤先生の考古学や私の建築は八尾だけではなく広がりがあり、普及啓発活動は気を使います。どこで行うか、時間帯によっては若い人は働きに出ているなど、そのような要因もみながらやっていく必要があります。何を皆さんに伝えていくのかという点と、場所や曜日などで分けてやっていかねばならないのですが、それが人数に反映するのです。そういうところについて事務局はどう考えておられますか。

事務局

以前はコミセンなどでも実施していましたが、地域以外の方が来にくいということもあり、前回は八尾図書館3階で実施しました。ただ、予約が困難なときがあります。櫻井先生のおっしゃるとおり場所・曜日は重要だと思います。どこでやるかなども含めてあらためて検討したいと考えております。

櫻井委員

以前に近鉄の仕事も行っていて、これまでもパンフレットは社内に配布して貰ったのですが、今も配布して貰っていますか。その他、チラシはどこに配ったのですか。駅には置いて貰えないのですか。

事務局

近鉄の関連団体である近畿文化会にチラシを配布していただいております。市史販売に繋がると思っております。また、チラシは各公共施設、コミセン、図書館などにも事前に配布しています。駅等の配置については今後検討させていただきます。

山原委員

最終事業年ということで収集資料について、現在使用している分やデジタル化で対応するものもあると思いますが、原本を残すとなればかなりの量だと思います。今後、収集資料の保管場所のこともあるので、どれくらいの量があるのか分かりますか。

事務局

古文書を収納している箱が300～400箱位、それ以外に参考資料の図書があります。デジタル写真等の資料データは容量の関係で市のサーバーに全部保管する訳にはいかないので、個別のハードディスクで対応しています。資料データを1台だけに保存するのは不安なので複数台で保存しております。

事業終了後についてのご意見がありましたのでお話しさせていただきます。昨年、地元が管理していた竹濑会館というところがあるのですが、その会館が市に寄贈となったため、使用について担当課から照会があり、市史編纂室も手を挙げました。現在協議中ですが、使用できそうなので資料は保管出来る

と思います。今年度末まで事業がありますので、来年度に引っ越し作業を行う予定です。

築山委員

保存資料のことですが、市でも全般的に永年保存を見直していこうという中で、何をもって歴史資料とするのか、公文書の中での仕分けが難しい。この辺は今後調整していきたいと思っています。

それから普及啓発ですが、新しい議員さんが私のアイデンティティは郷土愛で育まれたとおっしゃっていましたが、そんな風なアプローチもしていただければと思いました。

事務局

櫻井先生が監修された建造物編の講演会を秋頃に考えています。今年発刊された本であり、古い建築だけでなく現代の建築も取り上げられています。従来、市史というと社寺の建築だけというイメージがあったのですが、今回は失われた建築も含めて櫻井先生等にご説明いただけたらと思っています。非常にユニークで多様な文化財を紹介されており、ご参考になると思います。

村上委員長

編纂事業は今年度で終了となり、その成果を引継いでの普及啓発ですが、私の先輩の2人から話がありました。1人目は現役をリタイアした方ですが、古代からのいろんな勉強を始めようとされていて、八尾は歴史・文化の講演会がいっぱいあるだろうから機会があれば言ってほしいと話がありました。2人目は府OB会の集りがあり、八尾の歴史・文化について勉強してみたいとのことで、私のところに来られました。これまで続けてきた普及啓発活動が、どこかでその人たちの記憶に残っていて、私が八尾に来たことで繋がり、また勉強してみたいということになったのかなと思っています。

櫻井先生から誰に対して、いつ、どこで、あるいは何を伝えるかというお話がありましたが、大切なことだと思います。市史編纂については一区切りつきますが、いろんな手法を用いながら引き続いて普及啓発をやっていく必要があると思っています。築山委員からお話があったように、自分が生きている時代の歴史ということで、そこからまた興味がわいてくるということもあると思うので、事務局としても検討していただければと思います。

櫻井委員

市史を作ったらまちづくりに活用してほしい。それをやった所は結構成功しています。市史は市史、行政は行政とやっている所では、橋渡しをするものが何もない。市史が終わった時点で終わりではなく、まちづくりの中でさらに活かしていただきたいと常々申し上げます。市史をそのままにするのではなく、まちの性格を変えていく道具として使っていただきたい。

それから残念なことが一つありました。それは紀要を作らなかったことです。市史をやるときに普通は紀要を作ります。市史には全部書けないからです。書けることはもっとたくさんあるのです。今は先生方の頭の中には市史の成果がありますが、このあと何もしないと全部忘れていきます。おそらく、これもあれもとあるでしょうが、本にすることはなかなか難しい。そういうことも踏まえ、まちづくりのやり方を市史によって変えていただきたいということが私の願いです。

山原委員

関西万博もあるので、この市史を通じて、まだ脚光を浴びていないが八尾市として最高だなというこ

とがあれば教えていただきたい。

寺澤委員

これはそれぞれの時代で思うところがあります。そういうものをこの市史の中から引き出すという作業は残っており、それを今後どうするかというところは非常に大事です。市史に書いてあることがそのままストレートに市民に伝わるわけではないので、その間のクッションがこれからの仕事だと思います。

本日は藪田先生が欠席されていますが、先生から先日の編集委員会で出た問題点などを私の方から伝えるようにとのことだったのでよろしいでしょうか。

一つは八尾市史が全く遅れることなく予定どおりに刊行したこと、そして今年度の刊行が進めば、10年以上前の当初からすべて予定どおりに刊行したことになります。コロナ禍の中で非常に大変なことであり、他のところが遅れているのに、これだけ順調に進んだところはないとおっしゃっていました。平成から令和にかけて、これだけの市史が出たのは全国でおそらく例がないと思います。でも、出たから良かったということで終わるのではなくて、実はこの先に大きな仕事が残っているのではないかなというのが編集委員会の意見です。

刊行されたあとに三つやるべきことがあると思います。一つは大量に出てきたデータ資料をどう保管するのか。それを管理して目録を完備していくのか。これはこの仕事を次世代に繋げていくための私たちの義務だと思います。これに関連して言いたいのは、私は考古学担当でしたが、市史を作るときに調査をほとんどしなくて済みました。何故かという、埋蔵文化財センターに拠点がある八尾市文化財調査研究会が発掘したデータ資料を緻密に残して報告書をきちんと出していたからです。最終的にそれを利用して市史資料が出来上がりました。合わせて東京などに保管してある資料を探して調査するなどの仕事で事足りました。文化財調査研究会が何十年も調査をし、報告書をきちんと出していたことが市史の元になっていることを是非お伝えしたい。

来年度に財団が無くなり、埋文センターの展示も無くなると聞きました。そうであれば大量の資料をどうやって保管するのか、またどうやってそれを整理し記録していくのかです。これは今の時点のものを20年先に送っても仕方ない訳で、いかに解釈するか、新しい資料をそこへ付けていくかという行為を続けていかねばなりません。これが二つ目にやるべきことです。

三つ目は普及啓発と活用問題です。先程、資料を保管する建物を確保したという話がありましたが、そこへ収納して済むという問題ではありません。その中で活用できるものをまずふりいかにかけ、展示やパンフレット、講演・シンポジウムなど、活用の仕方もなくさんある訳ですから、どんな形であっても発信することです。

何が言いたいかというと、この三つをするのは、人なのです。ハードや場所ではなく人なのです。それをやる人間が、これを引き継いでくれるかどうかです。例えば、本が出てしまうと市史編纂委員会が解体になり、職員も各部署に戻ってしまう。多くのところは資料を倉庫に入れたままで市民が見たいと言っても出てこない状態になるというのが私の知る限り多いです。

これまでの歴史を見ると、戦後の昭和30～40年代、市町村や県が市史を続々と作った。そのあと、それを補完・展示して歴史を伝えるための資料館を造りましょとなり、資料館や博物館建設ラッシュだったのです。そういうものが今は老朽化していています。新たにこれだけの市史を作ったのに、収蔵や展示の機能を怠れば、市史を何のために作ったのかということになってしまう。市史編纂が終わるのであれば、このあとのランニングプランを出して欲しい、それは短期・長期になると思います。

個人的には市町村で歴史博物館、自然関係の総合博物館というのは一つ持っても良いと思っているのですが、この財政難の時代に出来る訳はないので、それは長期の八尾市の希望であり目標として残していただき、短期として資料をきちんと整理して、積み重ねていくための研究を怠らず行う。そして何よ

りも常に市民に発信するという場を設ける、そしてそれが出来る人員を配置することが当面の大事だと思うので、それをどうしてもやっていただきたい。歴史民俗資料館はあるのですが、財団や埋文センターが無くなる中でどうやってカバーしていくのか、これ以降の体制について今年度中にスケジュールを見せていただきたいのが私たちの願いです。

おそらく編集委員会の方でまとめた上で話があると思いますが、藪田副委員長（市史編集委員長）から言付かったことだったのでお伝えしておきます。

事務局

本市には登録有形文化財であったり祭りであったり、さまざまな文化財という地域資源が多くあり、それを13年間かけていただいて市史にまとめていただいたところです。この大きな成果を今後どのように保存・活用していくのか、単に倉庫収めるだけではなしに、本市には歴史民俗資料館などの文化財施設がいくつもありますので、そういった所と連携し普及活動を進めていくのか、内部で整理をしっかりとやっていきたいと考えております。

村上委員長

寺澤先生から、それを担っていく組織というよりも人というお話をいただきました。櫻井先生からは、市史に書ききれなかったものも含めそういったものを放置しておくとなくなっていくことや価値をどう付けていくかというお話をいただきました。

八尾市として市史編纂についてどういう形で受け継ぎ、さらに新しい知見も加えながら普及活動していくのか、ご意見を踏まえながら今年度中に考えていきます。

櫻井委員

先程、少しお話を出していただきましたが、私が建造物編をやっていたので、そのことのお話を申し上げてもいいでしょうか。建造物編に書いておきましたが、どういうことを目指したかと言いますと、建築を担当する場合は、今残っているものだけを解説して終るのですが、以前に泉佐野市史に関与していたときに、昔はあった建物を入れないと建築の歴史は成り立たないだろうと考えました。今回、その方法を入れてみましたので、他にない市史が出来たと思います。

一つはキリスト教の建物です。かつて八尾はキリスト教の信者が多く、この辺りから四條畷市の飯盛山にかけてキリシタンの集団が多かったのです。それと、今は少ないけれども融通念佛宗が多かったことから、それも入れました。民家と近代遺産を膨らまして書きたかったのですが、コロナ禍によって、民家の調査が出来ず、個人情報の関係で写真の掲載許可も困難でした。思ったよりもその分野の部分が少なくなり、社寺が少し長めになりましたが、全体の構成はそういう風になりました。

村上委員長

以上で本日の案件は終わりました。本日の編纂委員会はこれで終了したいと思います。ありがとうございました。